

あいち病害虫情報 最新情報

平成29年9月15日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

トビイロウンカによる坪枯れが発生！

トビイロウンカによる坪枯れが9月上旬から新城市で発生しています。ほ場の見回りを十分に行い、本種を確認した際は直ちに防除しましょう。防除対策等の詳細は、本日発表の「平成29年度病害虫発生予察注意報第6号」を参考にしてください。

作物の病害虫

予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺量がやや多いので、ダイズでの発生量は、やや多くなると予測します。開花後30日頃を目安に防除を徹底しましょう。詳細は、本日発表の「ミナミアオカメムシ情報第1号（ダイズ）」を参考にしてください。

コシヒカリなど早期栽培水稻でイネ縞葉枯病の発生が多い状況でした。収穫後のひこばえは、ヒメトビウンカの生息場所となり、ヒメトビウンカは発病株から病原ウイルスを保毒し、次作の伝染源となりますので、速やかに水田を耕起し、ひこばえを放置しないようにしましょう。

落葉果樹の病害虫

モモせん孔細菌病の8月下旬調査における発生量は平年と比較してやや少ない状況ですが、調査を行った18ほ場中8ほ場で発病葉率が10%を超えていました。モモせん孔細菌病は枝や落葉痕部の組織内で越冬した病原細菌が次作の伝染源になるので、秋季防除を徹底しましょう。また、枝病斑は見つけ次第除去しましょう。

ナシ黒星病やうどんこ病が発生しているほ場では、次作の伝染源を減らすため、秋季防除を実施しましょう。近隣に収穫を控えているほ場がある場合、農薬の使用にあたっては、飛散防止に努めるとともに、収穫前日数に注意しましょう。また、罹病落葉は翌年の伝染源となりますので、集めてほ場外に持ち出して適切に処分しましょう。

チャバネアオカメムシのフェロモントラップ及び予察灯における誘殺数は少ない状況です。しかし、今年はヒノキ球果の着生量がやや多いため、平年より多くの果樹カメムシ類が果樹園に飛来するおそれがあります。今後、台風等の通過によりスギ・ヒノキ林の近くの果樹園に一時的に多く飛来する可能性があるため、ほ場内をよく観察しましょう。

ナシヒメシンクイは豊田市と豊橋市のモモほ場及び西尾市のナシほ場に設置したフェロモントラップで、平年より多く誘殺されています。秋季はナシほ場への成虫の飛来が続くことがあるため、発生が多いほ場では収穫前日数に注意し、防除しましょう。

シロイチモジヨトウの発生に注意！

キャベツでは、シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数とほ場における発生量がともに多い状況です。ほ場での発生に注意し、防除を徹底しましょう。9月1日発表の「平成29年度病害虫発生予察注意報第5号」を参考にしてください。

ダイズ、野菜類、花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数はおおむね平年並ですが、豊橋市及び田原市のキャベツほ場に設置したトラップではやや多い状況です。早期発見に努め、

防除を徹底しましょう。ダイズでは、白変葉を確認したら、速やかに防除しましょう。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並ですが、西尾市、豊田市のダイズほ場、豊橋市、田原市のキャベツほ場に設置したトラップではやや多くなっています。ダイズではこれからの時期は子実も加害されます。キャベツでは結球部に食入すると防除が難しくなり、キクでは、生長点付近や花蕾が食害されるので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。防除については、9月1日発表の「オオタバコガ情報第2号」を参考にしてください。

コナガは、フェロモントラップにおける誘殺数はおおむね平年並ですが、キャベツほ場での発生量はやや多い状況です。ほ場を観察し、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

キャベツほ場でのハイマダラノメイガの発生量は、9月上旬の巡回調査では平年並ですが、一部発生量の多いほ場があります。育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなるので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

アブラナ科野菜の細菌性病害に注意！

台風18号が東海地方を通過する可能性があります。台風などの激しい風雨で被害を受け傷ができると、黒腐病や軟腐病などの細菌性病害が発生しやすくなります。事前に農薬散布や排水対策を行いましょう。台風通過後は速やかにほ場の排水を図り、農薬を丁寧に散布しましょう。

名古屋地方気象台9月14日発表の1か月予報によると降水量は多い見込みです。細菌性病害は降水量が多いと発生量が増加します。また、害虫の食害痕が多い場合も発生を助長します。悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布するとともに、排水の悪いほ場では排水対策をしましょう。

イチゴ炭疽病、萎黄病

両病害ともに、気温が高いと発生が助長されます。また、炭疽病は台風などの風雨で発生量が増加します。発病苗や発病が疑われる苗は定植しないようにするとともに、本ぽで発生を確認したら、速やかにほ場外へ持ち出し、適切に処分しましょう。

イチゴのハダニ類

イチゴのハダニ類は、8月下旬の育苗ほにおける調査で発生量が多いほ場が散見されました。本ぽにハダニ類を持ち込まないように、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。

トマト、ミニトマトの黄化葉巻病、黄化病

トマト、ミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類を防除するとともに、感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820